南沢(みなみさわ)

藻岩山の南ろくから硬石山まで、現在の川沿、北ノ沢、 中ノ沢、南沢の四つの地域(藻岩・南沢地区)を総称して八垂 別と呼んでいました。語源はアイヌ語の「ハッタル・ペッ」。 ハッタルは「渕 |、ペッは「川 |であることから、「渕の川 |と

いう意味です。八垂別の中で一 番南側にあることから、南沢と 名付けられました。

八垂別と言われた地域のうち 最も平坦な土地であり、日本で 最初にラベンダー栽培が行われ た地としても知られています。 **▲ラベンダー発祥の地碑**



藻岩下(もいわした)

この地域は、昭和16(1941)年まで上山 鼻と呼ばれていました。藻岩山ろくに位 置し、いわゆる山の端にあると言う意味 から山端と例え、後にこれを山鼻とあて 字したものと言われています。

明治39(1906)年に藻岩村、昭和13 (1938)年に円山町となりましたが、昭和 16年札幌市と合併した際に、藻岩山のふ もとにあったことから藻岩下と名付けら れました。





簾舞(みすまい)

語源はアイヌ語で「ニセイォマップ」(峡谷にあ る川)と呼ばれていましたが、後にこれがなまっ てミソマップとなり、簾舞の字があてられ現在の 地名となりました。

明治5(1872)年に、本 願寺街道沿いに設けられ た簾舞通行屋の屋守黒岩 清五郎が定住。現在、当 時の通行屋は、札幌市指 定有形文化財として大切 ▲旧黒岩家住宅 に保存されています。



(旧簾舞通行屋)

定山渓(じょうざんけい)

定山渓という地名は、修験僧美泉定山にちなみ 命名されました。

常山(後の定山)は文化2(1805)年、備前国(岡山 県) 生まれ。全国各地で修行し、嘉永6(1853)年 蝦夷地に渡りました。慶応2(1866)年、張碓から 2人のアイヌ人の先導により、温泉を発見し開発。

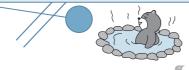
明治4(1871)年、有珠新道(本願寺道路)の検分 のため副島種臣参議と東久世通禧開拓長官が岩村 判官の案内で温泉に立ち寄り、常山の湯守の状況

を見て大いに賞賛し、無名の 渓谷に「常山渓 | と命名しまし た。

明治8(1875)年、明治政府 が太政官布告を出し、すべて の国民に姓を名乗ることを義 務付け、姓を美泉、名を常山 から定山と改めたことから、 以降定山渓と呼ばれるように なりました。



▲定山渓温泉の碑



藻岩(もいわ)

アイヌの人々は、現在の円山を「モ・イ ワ | (小さい山) と呼んでいました。

開拓使の岩村道俊判官が、ふもとの村を 円山と名付け、山の名前も円山と呼ばれる ようになったため、その「モイワ」の名が 当時「イン・カ・ルシ・ペ」(そこでいつも 物見をするところ)と呼ばれていた今の藻 岩山に転用されたと言われています。

現在は、藻岩山のふもとである昔の八垂 別地域(南沢を除く)が藻岩地区と呼ばれ



藤野(ふじの)

昭和19(1944)年の字名改正により、藤の沢と野々沢を 併せ、藤野と名付けられました。

藤の沢は、大正7(1918)年定山渓鉄道が開通し駅名を つける際、路線の敷地を寄付した加藤岩吉、小沢清之助 両人の一字をあて「藤の沢」駅としたため、地名もそれ までの「丸重吾の沢」に代えて「藤の沢」とされました。

野々沢は、アイヌ語の「エプイ・ウトル・オマ・プ」

(つぼみのような感じの小山の 間にあるもの)がなまったもの といわれるほか、「段丘の広い 野原が続いていたので野野沢」



と言い始めたなど諸説あります。**▲丸重吾橋**